

全国農業系学生フォーラム 高齡化など課題議論

県立大

第1回全国農業系学生フォーラムが6日、秋田市の県立大秋田キャンパスで開かれた。県内外の学生が参加して農業が抱える課題を議論した。県立大の薫風・満天フィールド交流塾の主催。会場には県立大の学生や農家、行政関係者ら約100人が訪れた。

フォーラムは同交流塾の大・山形大、宮城大、東京農業大、京都大、大阪府立大から13人の学生を招き、今年初めて開いた。

県立大の学生を交え「高齡化の進む農村のために、私達は何が出来るのか」をテーマに行ったパネルディスカッションでは、限界集落の問題に話が及んだ。この中で「地域を再生さ



県内外の学生が農業について議論した全国農業系学生フォーラム

せる熱意を持った若者を呼び込むことが必要」、「若者に農村への興味を持ってもらうために、市街地との交流や農業の新たなビジネスモデルの構築が求められる」などの意見が出ていた。

来場者も参加した公開討論では、日本の食料自給率低下が話題になった。自給率が下がった原因について「食生活

の変化による影響が大きい」、「米国の農業政策に日本が組み込まれ、過剰生産した農作物を日本に輸出してきたため」などの発言があった。

参加した県立大アグリビジネス学科の長津瞳さん(18)は「同じ農業を学ぶ他大学の学生との議論は刺激になった。今後自分の学習にも生かしていきたい」と話していた。